

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800075		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	市川グループホーム そよ風		
所在地	千葉県市川市本北方2-27-7		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しく入居された方々も「あゝ我慢しなくて良いのか」と安心して頂けるよう少しでも多くのご要望にお応えしていくよう努めています。田舎へ帰れば2時間も歩いているという方の「自由に散歩がしたい」とのご要望に、真間川周辺などを往復できるようになればと、現在、行政や当社内において助言をいただきながらも、ご家族とともに積極的に検討中です。また、週に一度は「焼き肉」や「しゃぶしゃぶ」など国産の高級肉を調達しての贅沢三昧な日を設けております。「寄せ鍋」や「刺身の盛り合わせ」は大好評でした。支援については「ご入居者が良い方向に進むことのお手伝いこそが真の支援」との観点から、職員一人一人が「行き過ぎ介助」「無責任見守り」とならないよう意識をしています。当事業所の強みである「安心笑顔」も「大丈夫」という合言葉と共に根付いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本人がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について、半年に一度サービス担当者会議で本人・家族・計画作成担当者・担当職員が話し合い現状に即した介護支援計画を作成している。日頃の変化等は、職員がつぶやくように自由に書き込めるコミュニティーノートやミニカンファレンスシートを活用し、各職員間で検討し合い情報を共有し本人本位の支援が出来るよう良く工夫している。外出支援も工夫してなされており、「安心笑顔」も「大丈夫！」との合言葉通り職員が自然な笑顔で入居者と同じ目線で接し、入居者の表情も生き生きとして、笑い声が響き会話も弾み「当たり前前の生活が当たり前前に出来ている」姿が印象的であった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「そのままがいい」を生活スタイルとし、その風理念を軸とした独自の方針を打ち出し、理念と共に唱和している。各ユニットでは「今できる事から」と、それぞれの目標を掲げて共有している。	『利用者様の一瞬一瞬と向き合います。出来ることはやって頂きそれを根気強く支えます。暖かい心、元気な笑顔・選択できる生活』との独自の理念を掲げている。入居者のありのままを尊重し、「諦めず限界を作らない介護」を目指し、入居者の自立を支援するサービス提供を職員一丸となって実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	犬の散歩時に立ち寄り下さる方との親睦も深まり、敬老会では地域の小学生の参加もみられた。女性団体の視察や近隣自治会館における音楽療育養成講座の実習生受け入れの場としても定着している。	近隣の方が犬の散歩時に立ち寄り、入居者が順番に餌やりをしたり、小学生が立ち寄り居間での会話が弾み、牛乳パック菜をやり取りしたりしている。公民館の音楽療育養成講座受講生の実習の場として定着している。散歩時にお花や植え木・野菜を良く頂く等地域との繋がりが広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護教室」や「一人介助の基礎講座」「認知症サポーター育成講座」等、企画のみで実現にまで至っていないのが現状である。今実施している行事企画等への参加呼びかけから始めたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議やご入居者・ご家族の声は会議において共有し、改善に向けて取り組んでいる。ユニット会議は課題解決に向けた話し合いが中心で行われており、後日のサービス提供にも大きな変化がみられる。	2ヶ月に一度定期的に開催している。入居者家族・市職員・地域民生委員等の参加を得て、近況報告・外部評価結果・防災訓練と協力依頼・医療連携などを議題として活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告や事業所内における諸問題の発生時には即座に対処策を持って報告をし、今後の方針について助言をいただいている。運営推進会議においても、熱心にご参加くださり、的確なアドバイスを頂いている。	入居者の実情や細かな事例についても良く報告している。好きな時に好きな処を散歩したい入居者について、GPS装着など想定リスクと対応策などを地域支援課と相談したり、梅干作りの工程等の写真を地域に発信したみたらとの助言を頂いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議では自力が困難な方が「行きたい場所に行けない」ことについて理解し合い、無意識に行っているかも知れない拘束について検討している。エレベータードアは開放できた。玄関の自動ドアの手動化(一定時間)に向けて稟議を申請中。	身体拘束について、各職員が勉強したことを「言葉や態度による拘束、監視による拘束」等の事例を挙げて職員間で、レベルの高い話し合いを行っている。エレベータードアも開放し、現在玄関ドアの手動化に向け対応する等拘束をしないケアの実践に良く取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支社研修の研修にも積極的に参加し、虐待について学んでいる。また、事業所内の研修においても、言葉による虐待など、日頃は意識もしていなかった言葉が虐待に繋がっているという事を学んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活における「選択・決定する権利」については支援方法を通じて学んでいるが、法的な権利擁護については学んでいない。成年後見人制度については、対象となるご本人やご家族にはご説明している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はご入居時に行われることが多いが、予め掛る時間をお伝えし、1時間以上の時間を費やしてゆっくりとご説明している。また、見学時にも相談室にて疑問やご不安な部分について詳細にご説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議では、ご本人やご家族のご要望を十分に伺った上で介護計画を立てている。また、運営推進会議では、日頃、ご家族より受け賜るご忠告やご提言などを報告し、対処策についてお話をさせて頂いている。	毎月の近況報告書に前月の課題と成果、行事報告、今月の課題と行事予定などきめ細かく報告し、「ご忠告とご提言欄」を設け、頂いたご提言等を運営に反映させている。担当者会議に家族も出席いただき、居室担当者が直接ご入居者のことを説明する。家族の思いを直接知ること出来、又、家族との信頼関係が大幅に上がり、何でも言っていただけ関係が出来てきた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のプロジェクト会議にて、運営における改善点などの意見を述べてもらう機会を設けている。また、日頃より職員とのコミュニケーションを図り、その場で発案された提案等を大切にしている。	毎月のプロジェクト会議では、活発な意見交換が行われている。一回毎のクスリケース購入等、職員意見も良く反映されている。新人さんコーナーでは、悩みや不安など自由に書けるようにしたり、コミュニティーノートを積極的に活用する等、職員が何でも言い易い雰囲気作りとその提案を上手く活用している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の更改制度を導入。1年間の実績について評価し個々の職員に求めるものを伝えと同時に職員からの不自由な点や給与についての満足度等を聞き、今後1年間で達成したい目標を個々に設定している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の資質に合わせ、指導・教育していくよう努めている。本社、支社の研修は率先して受講を勧め、事業所内においても月に1度の勉強の機会を設けている。また、外部研修の広告は常に新しい情報を掲示している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	民間企業による各種研修の自発的な受講を通じてネットワーク作りを進めていくことを推奨するが、積極的な受講の実績はみられない。事業所内における環境設定についても取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安やご要望を聞くだけでなく、表情や言動からもご様子を伺って、話しやすい環境作りを心がけている。収集した情報は秘密保持を守りながらもコミュニティノートや口頭にて共有し、安心していただける		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の不安やご要望を聞くに留めず表情や言動からのご様子に留意し、話しやすい環境作りを心がけている。収集した情報は秘密保持を守りながらコミュニティノートなどを通して共有し、全員で検討している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最低でも半年に1度の担当者会議を開催し、変化のご要望に対応している。小さな変化についてはミニカンファレンスシートを活用し、気付いた時点で支援の改善をこまめにできる体制作りを心がけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の大先輩であるご入居者を敬う姿勢を指導している。職員もそれを自覚し、ご本人が持つ得意分野について教えて頂いている。できる事・できない事の把握に努めながら日々の暮らしを共に楽しめている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族と共に支援する」をモットーに担当者会議では支援のご協力を得ながら、ご家族による支援を必ずケアプランに盛り込んでいる。月に1度、担当者より近況報告書をお送りし、支援経過や課題を提示している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所をドライブコースに選んでいる。また、いつでも誰でも気軽に来館していただける環境作りを心掛けており、庭側から入館される方もいらっしゃる。職員も来館者には、ご家族同様のおもてなしをしている。	行きつけのパーマ屋さんに家族と行ったり、昔馴染みのスーパーにタクアン用の大根を買いに行ったり、馴染みの場所をドライブコースに選んだりしている。毎日のように散歩に行くので、近隣が馴染みになっており、「菊の花をやるよ」と約束したから持ってきたとか、行きつけの「飲み屋」をマスターとの語らいの場とするなど、馴染みの関係を継続する支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご入居者の関係の微妙な変化を見守り、必要に応じて会話の仲介をするなど、ご入居者同士の関係を大切にしている。その関係は1ユニットに留めず、他フロアへの不意の訪問等も楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時のお声掛けにより、ご自宅へ戻られた方のご家族より「手すり設置」のご相談を受けて事業所との橋渡しをした。また、ご逝去された方のご家族も時折来館され、お茶を飲んだり、植木を持ってきてくださっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その一言を大切に」との姿勢で、言いかけた一言を聞き流さず、言葉が出にくい方からの一言は日頃の思いから推察し、ご希望の把握に努めている。その情報はコミュニティーノートの活用等で共有している。	職員がつぶやくように気軽に記入できるコミュニティノートを活用し、入居者に関する発見などを自由に記入して職員で共有する仕組みができています。コミュニティノートや「その一言を大切に」日常の会話から入居者さんの希望を良く読み取るよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の何気ない会話から知り得た情報はコミュニティーノートの活用で共有している。必要に応じてサービス提供などの支援経過を記録している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌でその日の状況や過ごし方を職員間で共有している。一人の小さな気付きや発見は日誌の申し送り欄で共有し、結果ができるまで継続観察や報告に努めている。必要に応じてデータ収集を継続している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度、居室担当者が介護援助計画を見直し、暫定的な援助計画を担当者会議でご家族に提案し、チームで検討を進めたものをケアプランに起こしている。こまめな支援変更はミニカンファレンスシートを活用。	入居者の小さな状態変化や職員の気付きがあったときには、ミニカンファレンスシートを用いて職員が他職員に提案する仕組みがある。提案された事項は、午後日勤者でリスクを含めた検討がされる。その事案が決定となるまでは話し合いが繰り返される。決定された事項も職員間に浸透するまでは掲示される。サービス担当者会議には入居者と家族も同席し、現状に即した介護計画をチームで作成する仕組みが出来ている。又、介護援助計画は、居室担当者が説明している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケースに記録すると同時に、その場に勤務する全職員への素早い報告を心がけており、現在ではフロアにおける職員間の会話は支援の実践や気づきに掛る内容が当然となっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自由と長時間の散歩を望む方へのGPSの活用を検討し、行政確認や本社への申請などに取り組んでいる。時にはスタッフ宅の子猫を迎え、一日飼育体験を楽しむなど、常に可能性を追求している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週火曜日にはヤクルト販売員に訪問して貰い、選んだ飲み物を販売員から直接受け取るなどのやり取りを楽しまれている。また、地域の小学生の立ち寄りもあり、各部屋を訪問して手作りの品を配っていただいた。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所では日暮里ホームクリニックと医療連携を結び、連携を密にしながらも、ご希望により、ご入居前からのかかりつけ医の選択もご本人に一任している。訪問歯科では2医院を入れて選択していただいている。	以前からのかかりつけ医に往診してもらっている入居者さんもいる。訪問歯科は二つの事業所に依頼しており、ご本人とご家族が選択して受診している。医療連携をしている事業所は2週に1度のペースでの訪問診療となっている。ご家族対応により精神科、眼科、皮膚科、脳神経外科の受診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的な変化については個別ケースの記録とは別に協力病院への報告用に身体と精神に分けた情報シートを作成して記入している。緊急時には常にどのスタッフでも自由に看護師に連絡を取れる仕組みにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携や協力病院を置くことにより、連携がスムーズに行われている。予めご家族の第1～3希望の搬送先を伺い、把握した上で、緊急時の受け入れ病院が少ない当市での対応策として千葉西病院に24時間登録して予め情報を交換している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア研修を実施し、事業所の方向性を職員間で共有している。運営推進会議においてもご家族に方向性を伝達しているが、看取りについての詳細な対応方法は状況や対象者により異なる対応を可能にすべく、その都度話し合っており取り決めている。	既に看取りをされており、ご家族との情報共有、思いの把握に努める経験をされている。ターミナルに関して、職員の研修や、医療面での連携を模索しており、加算にとらわれず対応できるよう環境整備に向け取り組んでいる。	センター長の看取りに対する思いは、他職員のターミナルに対する思いに影響を与えている。ターミナル、看取りに対しては受け入れの方向が共有されているものの、職員間でも温度差がある。これら乗り越えるためにも、職員のストレスへの対応、不安の軽減にむけた研修などにより更なる意識の共有を図ることが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の防災訓練を実施し、消防隊員による救命講習を実施している他、一般向け普通救命講習の参加も促進している。今年度は職員のほとんどが普通講習を受講し、上級救命講習を希望するスタッフもいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練実施の際には地域の方々に参加を呼び掛けているが、まだ体制が整っていない。積極的な協力要請をと、今年度の訓練時には、介助を要する方の部屋などが分かる施設内の見取図をご近所に配布した。	避難訓練を年に2回行い、近隣の方々に参加の呼びかけを継続して行い、介助を必要とする入居者の部屋の見取り図を配布する等協力要請を行っている。防災食等も備蓄している。スプリンクラーを除いた防災設備は備えており、スプリンクラーも設置にむけて動いている。	いつ起こるか分からない災害に備える為にも、現在、検討されている夜間を想定した召集訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	下の名前で呼ばせていただくようにしている。また、視線と言葉遣いには特に注意を心がけているが、職員には親しさと尊厳の境界が難しいようであるが、自分なりにその方に合った声掛けをしている。	お話しをする時の職員と入居者さんとの距離感や視線、日常的な職員の声かけ、記録時の言葉の選び方にも配慮している。職員で統一した対応が必要な事柄は、お伝えの仕方を具体的に例示するなど、入居者さんへの配慮は徹底している。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員自らが訴え易い環境作りを心がけている。またお好み外出やお楽しみメニューなどの導入等、選択の機会を多く設けるよう配慮し喜んで頂いている。立位困難な方の洋服選びには、服のカatalogを作成している。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の原則を逸脱しないよう注意を払いながらもできるだけご本人のペースを大切にしている。集団で行うものについては孤立しないよう、声掛けや誘い方に工夫している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の服の選択はお任せするかスタッフと共に選んでいる。また、その方に合った髪型を尊重し、理美容については相談があれば対応している。時にはお化粧品したりマニキュアを塗って楽しんでいただいている。	
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ティータイムには食事の話題を提供し、楽しみながら食べたいもののご希望を引き出している。また、その日のご気分やできる事・できない事を把握しながら食材の準備や料理までを共同で行っている。	平日は食材屋から購入し、土曜日は残りの食材で工夫して献立を考えている。日曜日は「贅沢デイ」として地域のお店で食材を購入し、ステキや刺身盛り合わせを楽しむ。3ヶ月に1回程度でお寿司屋さんをホームに呼び握ってもらうなど、食を楽しむ機会が豊富にある。炒め物、天ぷら、汁物、おやつ調理を入居者さんが行うこともある。下膳は入居者さん自身が行い、職員が食器を洗うと、自然と入居者さんが集まり拭いている。お茶碗、お椀、箸、湯のみは入居者さんが自宅から持参したものを使用している。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	苦手な食材などを把握し、形を変えて提供させていただいている。毎食の摂取量を記録し、その方の平均摂取量に比して食欲の有無を判断している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケア研修にて自らの口腔ケアを実践し、技術を身につけている。また、口腔ケアの大切さについても正しく理解できるよう日々の指導にて通知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁と失敗に分けた報告を心がけ、職員は失禁イコール即パット使用という意識を排している。歩行が困難な時も、ドクターストップがない限りはトイレでの排泄を実践しており、それにより自立度の安定が図れている。	一般的な失禁を、さらに失禁(尿意のないもの)と失敗(尿意あるが間に合わなかったもの)とに分けて、失敗に対しては工夫ができるものと捉え対応している。日中のリハパン使用は2ユニットで4人とどまり、布パンツとパットの使用や、リハビリ用布パンツを使用している。入居者にあった声かけと誘導を心がけて対応できている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜勤者は朝礼にて2日以上マイナスの方を報告し、その日の勤務者は日中を通して食後30分後の声掛けと飲食や運動に工夫を凝らしている。また、毎週2回はヤクルト販売を利用し自然な整腸を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否や疲労感の強い方の入浴時間は、その方の気分や体調に合わせ、入浴の意欲に繋がる雰囲気作りや声掛けを心がけているが、現状では入浴日やある程度の入浴時間は決めさせていただいている。	基本的には個浴で二日に一度、13時30分からの入浴となる。午後入浴には適さない方には午前で入浴してもらったり、入浴を嫌がる方へはタイミングを見計らったり、誘い方を工夫するなど個々の対応ができている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感が見られる際には休息の声掛けをするが、基本的にはご自分のペースで自由に休んでいただいている。就寝もご自分のペースに応じている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居当時から服用履歴と効能及び副作用や注意事項が分かるファイルを作成して管理している。配薬には十分に注意するよう確認作業を徹底しており、お渡しする際の二重チェック機能も確立し実践している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることと出来ないことを見極めながらも無理のない範囲で楽しく活躍していただいている。支援する側が固定概念に囚われず、常に可能性を信じているため、新たにできる事を発見して活躍していただく事も多い。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の何気ない会話や担当者会議等において、ご本人のやりたい事や行きたい場所の把握に努めている。お酒好きだった方を居酒屋へお連れし、「おやじと息子の団らんの時を楽しんで頂く等、ご家族の協力を要請しながらの「お好み外出」も実施している。	天気がよければ外出できるよう配慮されている。洗濯干しも入居者さんと一緒に外に行き、外の花の水遣りも入居者さんの担当となっている。散歩は天気がよければ1~2回行い、40分程度のロングコースと10分程度のショートコースを、入居者さんの状態を選択している。おやつや夕食の材料をスーパーに買いに行くこともあり、外出機会は頻繁にある。お好み外出では、個々の希望にあわせ、映画やカラオケ、公園など、お一人から四人程度での外出を企画し実行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からのご要望があるご入居者には、施設内における理美容や購入品などの実費部分を一時立替え払いし、ゆっくりと金銭のやりとりを行いながら計算やお札やコインの違いなどを確認する時間を設けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい」と訴えのある方には、ご家族のご都合を確認した上で電話を繋いでいる。まめにはがきをくださる娘様に、牛乳パックに押し花を添付した手作りはがきを作成して返信を促している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた手作りのカレンダーを飾ることで季節感を出している。また、テーブルや壁に季節の草花を飾ることも多い。また、玄関口には季節に合った花を置き、来館される方々や通りがかりの方々に楽しんでいただいている。空調にも十分留意している。	光や音に敏感な方がいる階では、白いカーテンを使用し、カーテンを閉めても暗くならないよう配慮している。リビングは窓を開けて風をとり入れることができ、1階では外に出ることも可能となり開放感がある。リビングには手作りカレンダーにドングリや落ち葉などが飾られ、季節を感じることができる。ソファに座って数人でテレビを楽しむこともでき、食事以外でも穏やかに過ごせる雰囲気となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置に配慮している。また、狭い空間であるため、移動は自由にしていただき、ご入居者同士の行き来もある。また、事務所を訪室されることもあるので、その際には寛いでいただいている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒のリスクを検討しながら使い慣れた畳や椅子ベッドなどをお持ちいただいている。滑り落ちのリスクが大きいベッドや寝具を使用されている時にはベッドメイクの工夫によりリスクを最小限に抑えるよう努めている。	収納スペースもしっかりとあり、エアコンは各部屋に完備されている。居室には開閉可能な窓があり、危険防止のために、一定のところではロックされるようになっている。入居者さんはご自宅からラジカセやイス、ベッドやベッド手すり、お仏壇を持参しており、使い慣れた物で居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体が自立した生活を促す工夫がされている。トイレの場所が分からない方用に「お手洗い」の表示をしていると共に、様子から察知してご案内している。「できる事を奪わない支援」を合言葉に実践している。		